狭いのが楽しみ

深谷源次郎が、なんでもどうでもこの結構な教を弘めさせて頂かねば、と、ますます勇んであちらこちらとにをいがけにおたすけにと歩かせて頂いていた頃の話。当時、源次郎は、もう着物はない、炭はない、親神様のお働きを見せて頂かねば、その日食べるものもない、という中を、心を倒しもせずに運ばして頂いていると、教祖はいつも、

「狭いのが楽しみやで。小さいからという て不足にしてはいかん。小さいものから理が積もって大きいなるのや。松の木でも、小さい時があるのやで。小さいのを楽しんでくれ。末で大きい芽が吹くで。」

と、仰せ下された。

【稿本天理教教祖伝逸話篇一四二「狭いのが楽しみ」】

これは後の河原町大教会初代会長・深谷源次郎先生が、入信3年後、講社を結成して間もなくの頃の逸話です。その後大きく発展した姿からは想像もつかない貧苦の元一日があります。

先人は教祖におたすけ頂いた喜びから、たすけ一条の道を勇んで歩まれ、さらに教祖から「狭いのが楽しみやで」「小さいのを楽しんでくれ」とのお言葉にどれほど勇気づけられたことでしょう。

現代でも先の見えない不安や、先が見えたときの恐怖などに心が倒れそうになることがあります。教祖存命の理を信じて、小さいからこそ先を楽しみに真心を運ばせて頂きましょう。

本島大教会布教部（典）

天理教本島大教会

教祖140年祭